

**ダイキン工業株式会社 2018年3月期決算  
アナリスト・投資家様向け説明会 質疑応答  
(2018年5月10日、東京)**

**Q：原材料価格の高騰による2018年度業績への影響をどのように見ているか。**

A：銅・アルミ価格が引き続き高い水準で推移していること、輸入関税の影響により米国で鉄鋼の価格が急騰していることに加え、中国の環境規制強化により蛍石の価格が高騰していることから、2018年度は、対前年度▲390億円（うち空調事業：▲300億円、化学事業：▲90億円）の影響を見込んでいる。さらなる販売拡大、コストダウンのより一層の推進、売価施策により、この影響をカバーしていきたいと考えている。

**Q：営業利益の増減要因について、固定費増の影響が2017年度（▲320億円）に対して2018年度▲450億円と大きくなるが、どのようなテーマに投資していくのか。**

A：販売拡大に向けて、グローバル各国での販売網・サービス体制の拡充、SE人材の確保・育成、ベトナム・マレーシアでの新工場建設や国内業務用工場の新しい生産棟の稼働など生産体制を強化する。また、AI・IoTなど新技術の獲得を急ぎ、事業の革新につなげていく。

**Q：米国空調事業の収益性改善の見通しについて。**

A：引き続き、販売網強化やヒートポンプ・インバータ技術を生かした差別化商品の開発などの先行投資を行いながら、高付加価値商品の拡販を強化するとともに、新工場での生産性向上により、収益性を向上させる。

**Q：米国グッドマン社の新工場の稼働スケジュールについて。**

A：主力の2工場については、すでに移管が完了し、新工場での生産をスタートさせている。これらの生産を着実に軌道に乗せるとともに、残りの2工場についても移管を進め、2019年2月末をめどに全工場の移管を完了する予定。コストダウン、生産性向上などによる利益貢献は、2019年度以降に本格化すると考えている。

**Q：中国空調市場の状況について。特に、住宅用マルチエアコンについて、販売が減速する心配はないか。**

A：不動産投資抑制や新築住宅着工の減少など市場環境は変化しているが、個人消費が経済を下支えしており、中国空調市場が今後も安定的に成長する市場であるという見方に変わりはない。住宅用マルチエアコンについても、上海など大都市で更新需要が旺盛であることに加え、経済発展の途上にある地方都市でも需要が拡大している。これまで当社が培ってきたブランド力・商品力・販売力を生かし、引き続き事業拡大を図っていく。

以上